

# 防災かしの木

上尾かしの木特別支援学校  
防災部 防災推進委員会

令和2年2月18日 第3号

## 避難所生活の不安 <意識調査より抜粋>

- 騒いだり多動で迷惑がかかり、周りの人と集団生活を送るのが困難なため。(37)
- 環境の変化により不安になったりパニックを起こす可能性があるため(11)
- 慣れない環境で子供に過度なストレスがかかってしまうから。(10)
- 知らない場所や人がいる所は苦手。大人数での共同生活は難しい(6)
- 地域の理解が進んでいない。(6)
- 子どもが避難生活に適応できない思われるため。(6)
- 周りの目に親が耐えられなくなりそうなため。(4)
- 避難所の生活スペースの問題(3)
- 身の回りのことがあまりできなかつたり言葉の指示で動けなかつたりするため。知らない人との集団生活は困難。安全面も心配。(2)
- 避難所で寝ることやトイレが困難なため。(2)

環境への適応や大きな集団が苦手な子どもたちにとって、避難所での集団生活は大きな困難であり、実際、東日本大震災では、被災した多くの高齢者や障害者とその家族が、倒壊の危険のある自宅や車中での生活を余儀なくされました。

こうした課題を踏まえて策定された「避難所ガイドライン（避難所における良好な生活環境の確保に向けて取組指針）」では、福祉避難所の所在地や機能（提供可能な支援内容、設備内容等）を、障害当事者やその家族等へ周知することや、指定避難所にあらかじめ福祉避難所に近い機能を有したスペース（福祉避難室）の設置が考慮されるべきとも示されています。各自治体の避難所運営の内容に、福祉避難所の拡充や障害の種別や家族単位等で利用できるスペース（福祉避難室）の設置が、多くの障がいを持った子供たちやその家族に必要なことを、地域のつながりの中で理解を深めていくことがたいへん重要だと思います。

## 「福祉避難所」・「要配慮者優先避難所」

福祉避難所とは、高齢者や障害者、その他の特別な配慮を必要とする要配慮者を受け入れるための設備、器材、人材を備えた避難所施設です。福祉避難所は、災害時に必要に応じて開設する二次避難所となります。（災害発生当初から開設することは原則としてありません。まずは、最寄りの小中学校などの一般の指定避難所に避難してください。）保健師などにより、福祉避難所への移動が適当（一般の指定避難所では生活することが困難）と判断された方が対象になります。

さいたま市は、福祉避難所とは別に、指定避難所のうち、主に公民館等の施設を、要配慮者を優先的に受け入れる「要配慮者優先避難所」として位置付けています。福祉避難所とは異なり、一次避難所の扱いになりますが、他の指定避難所と同時に開設されるかは、災害の規模や種類によって判断され、要配慮者を優先する目的から、一緒に利用できる家族の人数には制限が（1～2名）設けられるとしています。（さいたま市防災課担当者）

## 「避難所の受け入れや運営に関する意見・要望」＜意識調査より抜粋＞

- 知的障害者専用のスペースがあれば、長時間避難できると思う。
- 高齢者の多い地域なので、障害児が受け入れてもらえるか心配。
- 家族でばらばらの避難所に避難するのは避けたい。
- 市内の特定の避難所を指定するのではなく、どの避難所にも優先的に避難できるのが理想。
- もっと福祉避難所の情報がほしい。
- このアンケートで「要配慮者優先避難所」の存在を初めて知った。情報がどのように個人に届くか？いまひとつ市の発信が弱い気がする。
- アレルギー対応している所があるといいと思う。
- 上記のような避難所も、老人・乳幼児・障がい者が対象とされているので、できればそれぞれで部屋を分けるとか避難所を分けるとかした方がお互いに過ごしやすく利用しやすいのではないかと思います。一般の避難所でも、それぞれ隔離すれば(学校なら校舎を分けるなど)利用できるかも知れないと思う。
- 要配慮者の有無に関係なく近隣にも手助けが必要な人がいると関心をもってもらえるよう、広報などでポスターラインをなくしてほしい。
- 夜中に大暴れしてしまう可能性が高いので、そういった子供が避難できる居場所を確保してほしい。
- 今の状況では、他の方と一緒に過ごすのは難しいと思う。校庭など違うスペースがあれば気兼ねなく行けるのかも？
- 担当されるスタッフの方の知識を求める。要配慮者同士でも、避難所での過ごし方(様子や求める配慮)が違うなど、トラブル回避の為に気をつけるべきことなど教えて頂いた方が良いかも知れない。
- カード等を見せながらアナウンスしてほしい。情報を集約させた掲示板の設置をしてほしい。
- 要配慮者優先避難所の場所を知りたい。
- 高齢者が優先され、知的障害者は入れないような話を聞いたことがある。若い知的障害者は、避難所運営で役に立てることも多いと思うので、そのような良い面がもっと周知され、避難所に受け入れてもらえるようになると良いと思う。
- 普段生活している特別支援学校がそれぞれの障害のある人の避難所になれば良いと思う。一緒に避難する家族が運営できれば良い(色々な課題があり難しいと思うが)。そこには在校生だけでなく小さい子がいる家族など、指定避難所で生活しづらい人が誰でも集まると良いと思う。ペットのいる人の避難が話題になるが、それより障害者のことを考えてほしい。
- 「福祉避難所」の開設には時間もかかり、本人と介助者1名となると、家族全員一緒に避難できなくなる。事前に場所が公表されていないこと、医療の必要がある方が第一優先だと思うので実際は利用できないと想像できる。現実的な避難場所は、支援学校、作業所、マイカーとなると思う。
- 子供が大きな声を出してしまう。また逆に周囲の音も気になってしまうので避難所へ行くのはハードルが高い。福祉避難所でもギリギリまで自宅にいる気がします。
- 住民の数が多くて、実質的に全員が避難所に収まらず、生活できる住民はほんの一部という問題にはどう向き合うのか(行政としての対策が知りたい)
- 障がいの子と介助者のみ福祉避難所に行くと家族が離れてしまう。家族で過ごせる場としてほしい。
- 要支援者の事前聞き取りに来る民生委員の方は、少しでも理解のある方が良いと思う。

困難な避難生活においても、子供たちが必要な支援が受けられるようにするためには、地域の防災活動等にも積極的に参画し、日頃から、子供たちへの理解を深める努力が大切と考えます。お寄せいただいた要望は、機会を設けて、担当者に届けていけたらと思います。

「防災かしの木 No.4」(2月下旬頃発行予定)に続く